



希有なこと

(事実 その1)

私の父は、1945年3月硫黄島で戦死した。

25年後の或る日、突然一通の便りが舞い込んだ。硫黄島海軍司令部で父の直接の部下であったという人からのものであった。それにより、父の死の最期の様子の一部が判明した。1975年秋、私はアナポリスに在る米国海軍兵学校の文書保存館にいた。求めにより提示されたものは、「合衆国大統領ルースベルトに与ふる書」と書かれた封書であった。それは、紛れもなく硫黄島海軍司令官市丸少将が、最期に臨み米国大統領宛に抗議書をしたためたとされていた、その物であった。全員で最後の出撃をした際、それを腹に巻いたのは父であったとされていた、その物であった。

文書処理簿によると、この「抗議書」は、硫黄島北端の洞穴の入口で発見され、太平洋艦隊司令長官を経由して保存された旨記されていた。一連のコピーの提供を受け、1976年、在米日本国大使館勤務を終え帰国した。

(事実 その2)

関東某ゴルフ場での数年前のこと。宅配したゴルフバッグが自分の物と違うので、調べて貰ったら間違いありませんという。更に調べたところ私の物は別に在った。

余りの偶然に驚いて後日確率計算をして貰った。＜正真正銘の同姓同名の二人が、関東地方のゴルフ場で、同年同月同日にゴルフをプレーする確率を＞。

私が実際に遭遇したこの偶然は、計算に各種の仮定を置く必要があるが、それらが正しいとすると10のマイナス12乗のオーダーだそうである。いささか小さ過ぎるような気もするが、隕石が原子炉に落下する確率のことを思えば、やはり希有なことに遭遇したのかなとも思っている。(余談だが、もう一人の「村上健一」氏は、限りなく10の零乗に近い確率で、私が加入しているある同窓会の同窓生である)。

(その3 起こしてはならなかった事故)

JCO事故。

この事故は、とどのつまり「技術」ではなく「人間」が起こした事故という点でチェルノブイル事故と同種のものであると認識している。司直により、「技術」を含め「人間」がどのように裁かれるか注視している。

